

今工会報

第 3 7 号

発行所

今 工 会 事 務 局

☎557-0024

大阪市西成区出城1-1-6

大阪府今宮工科高校内

電話 06 (6631) 0055~7番

編集発行人 吉田 信 夫

あと4年で100周年の母校 今工会会長 峯山 昭範



今工会のみなさん、益々、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。
今年には2年に一回開催される総会の年であります。みなさんにお会いし、ご懇談できますことを心より楽しみにしています。

みなさんもお存知のように、我が母校は、1914年(大正3年)創立以来90年、あと4年余りで学校創立100周年を迎えます。なみなさんと共に、盛大にお祝いをしたいと思っております。役員会でも来年からの準備にあたり、いろいろ意見を出し合っているところです。

わが今工会は、1916年(大正6年)府立今宮職工学校校友会が結成されて以来、戦前の府立職工学校、府立今宮工業高校を経て、戦後の府立今宮工業高等学校、そして現在の府立今宮工科高等学校と校名を変えながら、その卒業生を正会員として発展してまいりました。母校の名称はどう変わろうと、「今工」の卒業生・同窓生であり、母校の更なる発展と在校生のみなさんが勇んで楽しく勉学にいそしめるよう、今工会として何が出来るか、みなさんと一緒に応援してまいりたいと考えています。



また、今工会の主たる目的「会員相互の親睦を図る」ために、理事会や役員会で議論していますが、特に、若い会員のみなさんの参加を促進したいと考えております。

母校のため、会員相互の親睦のために、よく論議してまいりたいと思っておりますぜひ会員のみなさまのご意見もお聞きかせください。

いまこそ共々励ましあい、一步でも二歩でも前進できるように頑張ってお参りしましょう。

2010年夏

旧北海道庁 堀江頼市氏画(7面に記事)

2010年 今工会総会のご案内

2年毎の総会です。今年には下記の日程で会催いたします。ぜひご参加下さい。多くの会員様方の参加で楽しいひとときをすごしましょう。

記

日時 10月31日(日) 11時から3時

場所 道頓堀ホテル

会費 5000円

同封の返信はがきで

10月10日までにご返事お願い致します。



ご 挨拶

学校長 丸岡 俊之



今工会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のことと存じます。平素は、本校の教育活動に多大のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

申し遅れましたが、私は、昨年4月に校長として着任いたしました。何とぞよろしく願い申し上げます。

先日、関西圏でも指折りのある電気機器メーカーを訪問しましたところ、取締役社長様が本校卒業生であることを人事部の方から知らされました。グローバル化が進み、市場競争の激しさが増す中、社員を鼓舞し、陣頭指揮をとっておられることを伺い、改めて今工に対する誇りを実感したところです。このほかに、多くの本校卒業の先輩方が、産業界、行政、教育界などで中核となって活躍されておられますことは、現役生の大きな励みとなっております。

本校は4年後に創立100周年を迎えます。この間、こうした多くの諸先輩等が築いてこられた誇りと思いをかみしめ、更なる飛躍を遂げねばと責任を痛感しております。本年、目指すべき学校像を、「『夢創造』の教育力と確かな進路実現力を持つ、リーディング工科高校」と掲げましたのは、そんな思いから出たものです。「夢創造」は、本校が工科高校になった時から、生徒の夢を育み、生徒が夢に向かって踏み出せる教育を進めようと考え大切にしてきた言葉です。そして、確かな進路実現を約束する学校として、工科高校をリードしてまいりたいと考えております。

いま生徒は、資格取得や部活動に励み、輝かしい成果を出しています。ものづくりコンテスト大阪大会優勝者や、運動部活動で全国大会に出場が決まった生徒も出てまいりました。また、地域産業との連携によるインターンシップや企業実習に参加希望する生徒も年々増えており、このことは、生徒に将来を見据えた豊かな職業観、勤労観が醸成されていくものと確信しております。さらに進学を希望する生徒は、進学のための科目の選択や、土曜日を活用した補習講習などに参加しています。お陰さまで、本校では昨今の経済不況にありましても、就職、進学ともにほぼ全員が進路を決めて卒業しているところです。

さて、NHK大河ドラマ「龍馬伝」が人気を博しています。激動の幕末期を駆け抜けた若き風雲児坂本龍馬は、時代を越え広く多くの人々に愛されています。一介の素浪人が、天下の薩長同盟の立役者となったことは驚く限りですが、それほどに度量大きく、信頼の深い人間であったということになります。彼は、「世に生を得るは、事を為すにあり」と言っています。私は、龍馬はこの言葉の通り自らの理想に向け、日々悩み、迷いながら走りぬく中で進化し、「昇り龍」となったと思っています。

現代社会の厳しさも言うに及びませんが、生徒が夢や志を忘れず、現実に果敢に挑戦する姿勢を身に付けてくれることを切に願っております。

最後に、今工会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、今後とも本校に対するご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いしましてご挨拶と致します。



高嶋 保・全日制教頭



村嶋善親・事務部長



福岡 優・准校長



横谷啓介・定時制教頭



平成21年度会務報告

- 役員会 5回開催(4月、6月、9月、12月、2月)
- 役員会で委嘱された役員指名委員会を8月に開催。
- 理事会10月31日 なんば道頓堀ホテルにて開催。
新役員(任期2年)の承認を受ける。
- 引き続き新幹事の今工会への関心を喚起する目的で、卒業式予行日に役員と新幹事の昼食会をもち、今工会の歴史や運営について説明。

平成21年度 会計決算書

【一般会計】

収入の部

前年度繰越	25,235,090
会費収入 (全日制231名, 定時制83名)	2,120,643
銀行利息	44,432
雑費収入 (今工会理事会会費)	167,500
寄付 (今工治老会)	10,000
合計	27,577,665

支出の部

庶務費 庶務費総計	745,285
総会・幹事会費	210,273
学校行事関係費	363,000
職員転退職記念品費	95,000
慶弔費	75,012
庶務部費	2,000
編集費 編集費総計	578
会報代	0
会報郵送費	0
会報発行諸費	578
編集部費	0
事業費 事業費総計	325,000
支部・クラス会補助費	25,000
広報関係費	0
部活振興費	300,000
事業部費	0
会計費 会計費総計	2,047
会計監査費	2,047
会計部費	0
事務費 事務局費総計	145,983
事務局費	106,669
企画室費	9,724
調査・通信・交通費	29,590
合計	1,218,893
差引残高 (平成22年度へ繰り越し)	26,358,772

[周年記念事業基金]

収入の部

繰越金	2,281,036
銀行利息	3,230
合計	2,284,266

支出の部

差引残高 (平成22年度へ繰り越し)	0
---------------------------	----------

[部活動振興会援助基金]

収入の部

繰越金	2,272,193
銀行利息	1,039
一般会計より (税金)	300,000 246
合計	2,573,026

支出の部

日本拳法部 全国大会 熊本県	100,000
電気系 もの作りコンテスト 近畿大会	80,582
懸垂幕 作成(卒業用、入学用)	99,750
合計	280,332
差引残高 (平成22年度へ繰り越し)	2,292,694

故 川端弘三氏を偲んで



川端さんは本科電気18年卒業で、川端金属鋳業、近畿金属、川端プロペラなどの会社を経営され、今工会の常任理事として財政的にも多大のご協力をいただきました。お礼申し上げます。2009年11月3日にお亡くなりになり、相撲の場所との関係もあり、12月1日北御堂会館にて社葬が行なわれました。企業界はじめ大相撲関係の方々など非常に多くの方々が別れを惜しんでおられました。

川端さん安らかに

機械26年卒 芋縄純市

川端さんは私の大先輩。今工に入学するには中学でクラスで1,2番でないと入れないと教えられました。選ばれて今工に入り、学問と共に相撲の土俵があり身体が大きかったので相撲部に入り、勉強と身体作りに力を入れ将来のために先輩に負けじと頑張りました。

川端先輩は、川端金属を含む6社を経営され、アメリカ、上海にも進出され立派に繁栄されました。いま経営はご長男の啓一氏に引き継がれています。

「大相撲」では、全国春日野部屋後援会会長、関西の大相撲愛好者の東西会会長として日本相撲協会に多大な貢献をされました。

インタビュー

昭和27年機械科卒
若林 克彦 氏

安全を開発せよ!!

ゆるまないナット・ハードロックナット

モノづくり中小企業の町・東大阪。高井田駅近くのハードロック工業kkをお尋ねしました。

NASAの規格をクリアし、緩まないネジでいまや世界的に注目されているハードロックナット。冬季オリンピックでボブスレーのネジを提供された報道を見られた方もあるのではないのでしょうか。

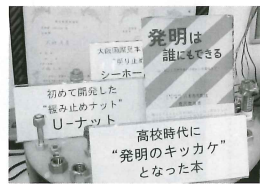
工場の3階にある広い展示室で、インタビュー。生きいきと話される様子は、自分の考えたものが社会で生かされていることへの喜びが全身に溢れている若林さんでした。



発明第1号・種まき器が展示してあるのでお聞きすると「小さいときからモノづくりが好きで、父の里・長野へ戦時中疎開していた小学校4年とき、種をまく農夫がしんどそうに手で一粒一粒まいているのを見て、何かうまくまけないかと考え、種まき器を作って喜ばれました第1号の発明です、「火ふき竹」もしんどそうだったので模型のモーターを使って送風機を作りました」と今日まで100以上の特許をとられたとのこと。

長野の小諸中学校から大阪に戻り、新制高校になった今工に2学期に編入されました。担任は社会科の小林先生。

展示の中に“高校時代に発明のカギとなった本”として『発明は誰にでもできる』があるので聞いてみると「天王寺に本屋があり、金がないので何回か立ち読みした本です。



この本が発明のきっかけになりました。この本を探し回り、青森県のほうにあることがわかりとりよせました」とのこと。

緩まないネジの発想は「今工を卒業して大阪工業大学に進み、卒業後バルブの会社で設計をしていました。見本市へ行った時、緩まないネジをくれました。ピンを押さないとはずせない、もっと簡単にできないかといういろいろ考えて特許申請もしました。そうしてできたのがリングを埋め込んだ緩まないネジ『ユニオンナット』で37年に会社をやめ弟と特許局にいた人を引き込んで独立しました。」「問屋やユーザーに売り込みに行きましたがなかなか受け入れ

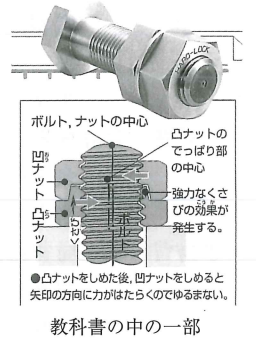
てもらえない。300個ずつ置いていきました。そのうちにコンベヤなどに使いはじめるところがでずつ注文がくるようになりました。」

「しかし緩むんです。蒸気機関車のクランクなどにUナットを使ってもらいましたが、もたなかったんです。打音検査で叩くためにリングのところが曲がって機能していませんでした。削岩機、杭打機にも使われましたが、それが緩み弁償もさせられました。」

「絶対緩まないネジを作らねばならないと思いS48年に、家が帝塚山でしたから通学の途中で住吉神社の鳥居を見ていました。そこに使われているクサビを思い出し、これをナットとボルトのすきまにかち込んだらどうだろうと考え、そこからヒントを得て試作し、1年ぐらいかかって現在のハードロックナットができました。S49年に10人でハードロック工業を立ち上げました。しかし費用がたらないので、玉子焼き器やプラスチック製で四角いトイレトーパーが一枚ずつだせる壁掛けの容器を作って売りました。やはり新製品が定着するには10年かかりますから、そうして資金を作り頑張りました。儲けてやろうということではだめで、喜んでもらえることが大切だと思います。」

さまざまな賞を受賞されていますが、21年に内閣総理大臣表彰の『第3回ものづくり大賞』で特別賞を受賞され、昨年、旭日双光章を受賞されました。「組合の推薦もありませんでしたが、経済産業省の局長の目にとまったのではないかと思います。」

今年、第35回発明大賞の本賞を受賞されていますまた小学校5年の社会科の教科書に、「高い技術とすぐれた製品」の項で東大阪の中小企業の例として「安全を支える部品をつくる」でゆるまないナットとしてとりあげられています。



帰り際に、工場の2階にあるミニ鉄道をみせていただきました。ミニSL、ミニ電車が人を乗せて走らせるようになっています。「若い頃からの趣味であり、緩まないナットが鉄道に多く使われていることから、見学者に楽しんでもらえるように」と、童心にかえる社長さんでした。

同級生の方々のつながりはいかがですか。「同窓会は『27会』としてやっています。旭日双光章をいただくと披露しなければならないことになっているようで、そのとき祝いに15人きてくれました」

最後に「私たちは先達から学びます。その恩恵を賜りながらも、しかし、どんなものにも100%完璧なものはありません。これが私の開発者としての基本精神です。疑問を持つこと、もう少しレベルの高いものができるのでは？と考えることこそが生産や開発に携わる者のあるべき姿だと思います」と、ものづくりの精神を謙虚に語られていました。

軍 国 少 年

昭和22年印刷科卒 住野 勉



昭和15年(西暦1940年)は皇紀2600年で大日本帝国は祝賀気分で盛り上がっていました。そのころちょうど10才の少年だった私は、「紀元2600年」の歌を、一生懸命に唱っていました。次代を担う小国民として、誇らしい軍国少年でした。昭和16年には太平洋戦争が始まり、日本帝国は緒戦の勝利に酔いしれていました。

そして昭和18年私は今工の入学式に臨んでいましたが、この時の情景は今も忘れることはできません。

ひと通りのセレモニーが終わり、新入生の間にはほっと緊張がわずかに緩んだとき、最上級生とおぼしき数人の人々が式場に姿を表しました。背筋をピンッと正したその内の一人が、足早に壇上へと向かいました。演壇に立った彼は、新入生を睨みつけるようにして眺め、口を開きました。「貴様らは・・・」と、大音声で講堂中に響き渡りました。新入生の間に凍りつくような緊張が、一瞬にして張りつきました。

事のよし悪しはまた別の問題ですが、ここにあったものはその頃の日本の縮図であったということなのです。

今工は、ひととき優れた中学校でした。このような時代の大きな流れのなかで、どっぷり今工に浸った私は軍国少年にさらなる磨きをかけ、死も恐れぬ少年でした。醜(シ)の御楯(ミタテ)となるべく、昭和20年には軍人を志願し、同年11月には入団の予定も決まっていました。しかし幸か不幸か、大日本帝国は8月15日に敗戦の憂き目を迎えました。このとき14才と11カ月の軍国少年の夏は終わりました。

戦後の日本には、進歩的文化人という階層が生まれ、歴史学界においてもご多分にもれず、この一群の人たちのリードするところであったと思われます。これらの人々が、新しい日本の歴史像を創りあげていきました。不思議なことはこれら識者の論調に、自国の歴史を自虐的とも思えるほどの扱いが垣間見られたことです。例えば日本国の成立問題です。

私は「悠久の国神国日本」を信じて疑わぬ少年でした。それだけに、敗戦の痛手は少年の心をえぐり取りました。少年の日に抱いた「悠久の国神国日本」の真の姿を、自らの手でいつの日にか、解き明かしてみようと密かに思っていました。

機会をえて、私にもそうした「日本国の成立」を研究する場が与えられました。平成18年関西学院大学で歴史学の博士号を受けることができました。

19年に『継体王朝成立論序説』(和泉書院)を刊行しました。

古希を迎えて

・ ・ 技術一筋から今は自然との ・ ・

昭和33年機械科卒 小泉 隆

今は亡き多田学級を卒業して、早いもので53年が過ぎました。去年、古希を迎え久しぶりにクラス会があり17名の仲間に元気に会うことができました。52年ぶりに再会した仲間もいて楽しかったのですが、会えず他界した仲間のことを聞き寂しさもこみ上げてきました。

今は各実習の設備も先端技術を取り入れた設備へと高度化され教育内容も随分と変革を遂げていると思います。当時は、段車付ベルト式旋盤で実習したのが懐かしく思い出されます。

多田先生の機械工作の講義で、いつもよくでた言葉『Aが廻ればBが廻る』いまだに脳裏に残っています。この言葉が励みになり、一に努力、二に努力を重ねる大切さを身につけて今日まで歩んできました。懐かしい言葉です。

椿本チエンに入社して、63才まで45年間一貫して生産技術畑を歩み、その間海外での技術指導も行い、定年退職前には新工場の建設に携わり、本当に充実した日々を過ごしました。

定年退職後は、いままで歩んできた環境から一変。“道端の野花を見て美しい・きれい”と思う時間の余裕もなく通り過ぎてきたものに興味を持ち、先ず自然との関わりの一歩として、2アールの畑を始めました。一緒に収穫し、野菜嫌いの孫たちも食べられるようになりました。



菜園は、採算を度外視して生き物を育てる興味の部分と、安全でしかも新鮮な野菜を手に入れる実益の部分、そしてその中に天気という大自然の身勝手な変動要素が噛み合いこの上ない楽しみでもあります。

3年目でようやく鍬の使い方も慣れてきて少しは周囲を見渡せる余裕もでてきて、“畦を耕している鍬を置き、目の前の里山の自然の成り立ちを思い、朝日が斜めから樹間をくぐり大地へ突き刺さる光景を眺め、心が奪われる日々”という今日です。

シニア自然大学に入り、知識と実践を身につけ、いまボランティア活動で、小学生から一般の人を対象に自然観察会や自然を素材にした工作や主に小学生対象に、最近理科離れがいわれるなか科学の楽しみを指導し、自身も共に研鑽でき楽しんでいます。子どもたちに『Aが廻ればBが廻る』を楽しく教えることに。

こうして第二の人生を楽しんでいます。

クラス会やっています

昭和37年機械科卒 古谷 富弘

M3C吉崎学級です。卒業後早くも半世紀程になります。今年も18回目のクラス会を開きます。人生の最終章に入り“生き急ぐ 我が黄昏に 一休み”の私たちですが、思い出の心のカーテンを開くと瞬時に当時は“ただいま”と飛び込んできます。一期一会とはいえ同窓生との交流は不思議な空間が漂ってきます。

今も現役で元気な同窓生を紹介します。

小平真輝雄君：今工卒業後コマツ(旧小松製作所)に入社し定年まで勤め、その後も関係の中国企業に海外赴任。「55才の1998年に初めて中国へ海外勤務。中東省済寧市にて油圧パワーシャベルの生産・販売。定年後も天津にある中国企業より請われ海外勤務。」「2006年5月、テレビ東京の中国特集番組で天津工場勤務を取材され『今中国で頑張る元気なシニア…』のテーマで放映されました。15分の短い特集で気恥ずかしい反面、自分に元気をもらった瞬間だった。そして現在は上海近くの南通市で再々度の海外勤務中。数年先は人生の双六のゴールに世界旅行を考える今日この頃」



向って左から二人目が私

福永宣道君：「今工時代の成績は真ん中ぐらい。就職しましたが、自分はまだできるのではないかと思います、4年目に会社を辞め大学へ。卒業後工業高校と普通高校で教えました。工業高校のほうが、人間的にも雰囲気もはるかによかったです。その後さらに研究の志が騒ぎ、40才で医学部に入学。しかし大学院にすべって臨床医になりました。さらに早稲田大学の文学部に入り、65歳でドイツ文学の文学研究科大学院に入学。無い頭を必死にひねって勉強しています。著作『おまかせ臨終から自分死へ』を出版。」

斉藤正幸君：神戸製鋼に入社、現在も勤務し、中国、台湾、イエメン等アジア、中東へ海外主張の日々を送っています。

池上栄一君：難波にておいしい沖縄料理店「貧乏殿内(ドン)」を経営され、私たちの同窓会の会場として毎回お世話になっています。

私たちはこの現役4人の方々に負けじと「味のある人生」をと張り切っています。

私の人生

昭和48年定時制機械科卒 松田 清

私は昭和41年長崎県の中学校卒業と同時に、当時大阪市役所に勤務していた兄を頼って大阪に出てきました。

兄の紹介で、ある会社で働いていましたが高校にいきたいという願望が生まれ、友人が「大阪で一番いい学校があるよ」と薦めてくれたのが、今宮工業高校でした。



入学当初は、古い校舎で床に穴が開き、冬は石炭ストーブの暖房でした。1学年、機械科4クラス、電気科2クラス、建築科2クラスの8クラスでした。無事に卒業できたのは約半数ぐらいではなかったかと思います。私の私生活は、苦しくもあり楽しくもあり楽しい

4年間でした。クラスメートや友人に支えられ、皆に会えるのが楽しみであり、励みになりました。

それ以上に、担任の山本晃先生はじめ、他の先生方の勤労生徒を包容する器の大きさ、寛容力には大変感銘を受けました。これこそが、今工精神だと思いました。だからこそ生徒全員が、母校に自信と誇りを持っているのだと思います。それゆえに4年間続けられたのだと思います。

今工で培った勉強、また努力が、私の人生の元になっています。そうして更に勉強したくて大学に進学しました。大学時代は、高校の頃学んだ機械設計のアルバイトをやっていました。大学卒業後も機械設計で生活出来る自信はありましたが、3回生の時、友人からシルクスクリーン印刷をやってみないかと声を掛けていただき、大学4回生のとき(株)マツダスクリーンという会社を立ち上げ仕事をはじめました。苦しい時期もありましたが、こつこつ努力をして継続しています。

私が生き方の座標軸にしているのは、感性論哲学の芳村思風先生の『人間の条件』です。それは、1.不完全性の自覚から滲み出る謙虚さ。(私は完全性を求めてきましたが、求めれば求めるほど自分を責めていくのです。すごく悩みました。不完全性に気付いた時に本当に自分を許す事が出来ました。)2.人間としての成長意欲。3.人の役に立つことを喜びとする感性です。

私が大切にしている言葉があります。“人を無視しない”です。人間が一番怖がっていることは何でしょうか？それは人から無視されることだと思います。だから「人を無視しない」生き方をしたいと思っています。



耐震補強された教室棟

75歳の青春

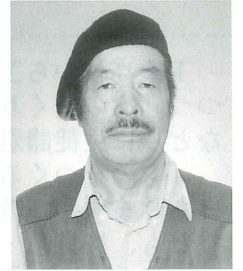
昭和28年建築科卒 堀江 穎市

1950年、憧れの今工に入学。和歌山県橋本市より片道2時間半をかけての通学でしたが3年間皆勤できました。「貧乏人の子は高校に行くことならぬ」と言っていた父も喜んでくれました。

部活は、新聞部、バレーボール部、住居学研究部、演劇部。演劇部では、大阪府高校演劇コンクールがあり、2年の時、「きけわだつみの声」で主演を演じ優勝。3年の時は「蛙昇天」で主演を演じ上位入賞。審査委員長より劇団を紹介すると言われたが、悩みぬいた挙句お断りしました。

1953年(株)浅沼組に入社、13年間在職。1965年堀江一級建築士事務所を開設、1998年63才で閉店。画業を志し現在に至っています。「一滴の水」をテーマに、会社勤めのときも、自営のときも、暇を見つけては絵を描いてきました。少年の頃絵描きになりたかったが、父が「絵は死んでからしか銭にならない」と言われ、結局建築を選びました。

北海道を旅したとき“大自然に囲まれて絵を描きながら生活できたら”と妻と語りあいました。旧国鉄事業団の土地放出の中から七飯村を選んで投票、しかし8500倍で当選しなかった。遊びに来ていた札幌出身の学生と話していて、「一滴の水」の話から、京極町が蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山のふもとで、百名水の中でも最良と言われる「ふき出しの水」があることを聞き、テーマにふさわしいということで役場から資料を送ってもらい、1996年に移住を決めました。本格的には2004年からで50坪の庭に菜園を営み、飲料など全てが名水に恵まれた生活で、絵を描いています。



絵画個展は、大阪、東京など15回で、2011年5月に大阪松竹座前の「ギャラリー一香」で水彩画の個展を予定しています。命より健康が大事をモットーに、75才からの青春を楽しみながら。水は万物の全生命。一滴の水を大切に。一番尊敬する人は今でもこれからも「乾 亮三」先生です。

【今工時代・剣道部の思い出】

昭和55年建築科卒 西山 勲

私の在学中、各クラブの活動は盛んで、特に日本拳法部が全国優勝を連覇し、自転車競技部もインターハイに出場、硬式野球部が大阪大会4回戦進出、軟式野球部は大阪大会準決勝進出などががんばっていました。剣道部には、剣道の指導者はなく成績は芳しくありませんでした。



剣道部の同級生は2名で、先輩方は2学年3名。3年生の先輩が引退した後、部員数はクラブ存続ギリギリとなりました。顧問の戎先生、電気科日比野先生、諸先輩方と相談しクラブ存続の苦肉の打開策で私がクラブ運営委員長に立候補、当選。要求どおりの活動予算は得ましたが、依然として部員

数が問題でした。2年生の時に、新入生が多数入部し、問題解決とホットした矢先、なんと肝心の稽古場所である体育館が改築のため取り壊しとなる不運。

活動内容は、主に、基礎体力強化など屋外練習となり、天王寺公園(茶臼山)へのランニングや柔軟、中庭で靴を履いて稽古もしました。また、土曜日は可能なかぎり対外合同稽古を申し込み、西成高校、西野田工業高等学校、市立都島工業にも稽古に行きました。

しかし、土曜日だけの稽古ではどうしようもなく、

苦肉の打開策として、お隣の今宮高校剣道部顧問に直接会いに行き懇願、あとで正式に顧問の先生からお願いしてもらいました。幸いどちらの先生も現国の先生で顔見知りであったこと、両校部員の中に兄と弟が居たことなどの偶然も重なり、週に2回、今宮高校の剣道場で稽古ができ感謝しました。

3年生になり待望の体育館が完成、真新しい剣道場で、最期の工業大会優勝を目標に稽古しました。また、校内にて合宿もしました。一度も面識のない田中研磨先輩、木村先輩、始め、諸先輩方々の参加をいただきました。

福岡先生との稽古は、剣道場が出来た頃からでしたが、何度かご指導いただきました。当時たしか全剣連3段とお聞きしていました。その甲斐あってか我々の最後の団体戦は3位入賞でしたが、翌年、後輩が工業大会優勝を成し遂げてくれ、その優勝の記念に当時の校長が直筆で書かれた「面手拭い」を卒業後の合宿参加時にいただきました。たしか剣道場の部旗と同じ「不動心」の文字が「今工の校章」と共に侍ブルーの青地に白文字で抜かれていたと記憶しております。

今では、遙か遠い悠久の「良き思い出」のひとつですが、貴重で、熱く、青く、純粹で愉快的な、苦悩の時間でした。

当時の皆様、その節はありがとうございました。遅ればせながら紙面をかりてお礼いたします。

「継続は力」今後の剣道部の活躍を期待致します。

母 校 通 信

「電気系のものづくり」



工業高校から工科高校へと学校が改編されてから6年が経過しました。「電気系」では、今工の伝統を守りつつ「ものづくり」に力を入れています。科目「課題研究」はもちろんのこと、資格取得（第2種電気工事士など）に生徒諸君が積極的に取り組んでいることもあり、基本的な技術が高くなってきたと感じています。「ものをつくる」これは、工業を主体とする学校では不可欠なものであると考えます。系それぞれに特徴はありますが、教員も日々の努力や研鑽を怠ることなく、新技術の習得や技能の向上に努める所存です。今後とも、機械系・電気系・建築系・グラフィックデザイン系へのご支援をよろしくお願いします。

電気系の取り組みの一部を紹介します。

ものづくりコンテスト大阪大会・・・大阪府下の工科高校の生徒によるコンテストで、電気工事作品の完成度で競います。平成22年度は、電気系3年の河田賢君が優勝しました。次は、近畿大会です。

出前授業・・・平成15年度から、西成区の成南中学校で中学生を対象にした授業を提供しています。現役の本校生徒が先生になって、中学生を指導するのですが、毎年高い評価を頂いています。



ものづくりコンテスト大阪大会
(賞状をもつ河田君)



出前授業 (成南中学校にて)



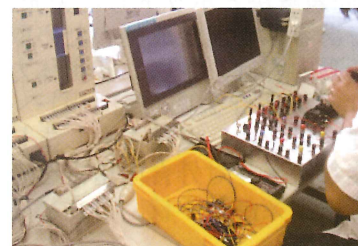
ものづくりコンテスト大阪大会作業風景



夏休み工作教室 (小学生対象)

夏休み、地域に開かれた学校を目指し、西成区の生涯学習推進委員会と共催で小学生を対象に電気工作教室を開いています。

今宮工科高等学校全日制は、機械系（機械技術専科・生産技術専科）、電気系（電気技術専科・電子制御専科）、建築系（建築設計専科・建築生産専科）、グラフィックデザイン系（グラフィックデザイン専科）で、一括募集し1学年は共通履修、2学年で系と専科を選びます。定時制は一括募集で総合学科になっています。



電子制御実習